

2022(令和4)年度 事業報告書

第57期 〔 自 2022(令和4)年4月1日 〕
〔 至 2023(令和5)年3月31日 〕

第57期 事業報告書

概況

2022年度の世界経済については、ワクチンの普及による重症化率の抑制などを背景に、総じてコロナ危機による落ち込みから回復する一方で、2022年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻が長期化しており、食糧や資源価格が高騰し、歴史的な高インフレが発生した。このため、欧米など多くの国・地域では厳しい金融引き締めを余儀なくされた。

一方、中国ではコロナ対策としての厳しいロックダウン（都市封鎖）が同国の経済活動を大幅に抑制しただけでなく、グローバルサプライチェーンの混乱ももたらしたが、年度後半からゼロコロナ政策の解除、および経済成長重視の政策運営への転換が総じて需要と供給の両面で回復が進んだ。

日本経済については、新型コロナの新規感染者数が一進一退を繰り返すなか、ワクチン接種は着実に進み、政府の活動制限の緩和が本格的に着手された。こうした状況を背景にコロナ禍で抑制、先送りされた需要が国内需要を押し上げる動きがみられた。

一方、原油、原材料の高騰に加え、年半ばから急速に進んだ円安により、海外への所得流出、国内のさらなるインフレが進み、景気回復は鈍化傾向にある。今後、高インフレに伴う賃上げや原材料価格の高騰による企業収益の悪化が懸念されるものの、人手不足を背景とする賃金上昇、デジタル化・脱炭素化など中長期視点での投資が拡大することやゼロコロナ政策解除に伴う中国経済の持ち直し、さらにはインバウンド消費の回復が成長率を押し上げることが期待される。

このような中、2022年度の国内の登録車及び軽自動車の新車の総販売台数は、前年度比4.0%増の4,385,649台となり、4年ぶりのプラスとなった。このうち、登録車は2,692,960台、同1.2%増、軽自動車は1,692,689台、同8.9%増と共に前年度を上回った。

一方、2022年度の中古車登録台数は、登録車が前年度比4.7%減の3,475,232台、軽自動車が同3.5%減の2,817,961台で共に前年度マイナスとなった。合計では、同4.2%減の6,293,193台となっている。

このような状況の下、当協会としては、自動車販売業界における中古車部門の重要性が高まる中、消費者に信頼される中古車査定制度の普及・浸透を主目的に諸事業を展開した。

販売店で利用されている中古自動車査定基準については、環境の変化に対応し適宜見

直しを行っており、その結果について周知徹底に努めているところである。

査定制度の充実、普及のためには、販売店における中古自動車査定士の資格取得者の増加を図ることが重要であることから、毎年2回の中古自動車査定士技能検定試験を実施している。今年度についても、6月、12月に実施した。申請者数は12,636名、前年比91.9%と減少した。登録査定士は2022年度末現在133,288名となり、前年と比べ308名減少した。

販売店、信販会社等からの依頼により当協会職員が行う査定については、30,364台で前年比101.0%と微増した。また、消費者・ユーザーから依頼され、修復歴の有無について確認する車両状態確認証明事業は、3,673台で前年比78.5%と減少した。

オークション出品車両の事前検査事業の検査台数は33,688台で、前年同期比90.2%と減少した。

また、商品中古車の確認証明申請台数は180,240台で、前年比103.5%と増加した。

中古車輸出検査事業については、モーリシャス、バングラデシュなどを中心に、2,500台で、前年比141.0%となった。当事業は、仕向け国内の政治的事由に大きく影響を受け輸出台数が極端に増減を繰り返しているが、今年度は、新型コロナウイルスの感染が落ち着きを見せ検査台数が増加した。

このような中、協会の主要業務に成長した車両状態証明事業（V-CON）ではあるが、2022年度は、検査台数が126,985台で、前年比94.4%と減少した。

査定総合支援システム「カーチェックス」については、自動車乗用メーカーの内7社がほぼ全国で導入展開しており、自社の基幹システムとも6社が連動を果たしている。各社にとって日常業務に必要不可欠のシステムとなっているが、さらなる利便性向上のため、各メーカー独自の販売支援システム、オートオークション、大手中古車検索サイトとの連携及び改修を随時行い、また時代に合わせた仕様展開を提案している。

また、当協会が運営する流通価格情報（オートオークション、小売）検索サイトである「e-JAN」については拡販のため、新規AA会場の獲得等、随時行っているが、単に「価格検索」のみならず利用者の利便性のために新機能追加等を図った。

当協会が発行する中古車グレード判断に関連する参考書としての査定ガイド、価格情報誌であるイエローブック、シルバーブック等の各種ガイドブックは、自動車販売関連企業の統廃合、社員の減少、経費の節減、査定システムの普及等から販売環境は厳しく、販売部数は減少しているが、参考資料として引き続き高い評価を得ている。また、査定

ガイドの電子メディア「JAAI-Net」を通じて我が国で販売されている全ての自動車に関する型式・装備内容等の情報を提供しているが、2022年度においても、迅速な情報の提供と内容の充実及び利用者の利便性向上に努めた。

2022年度の当協会事業については、厳しい経済環境等の中であったが、各種事業を積極的に推進し、事業の合理化、経費節減等に努めたこともあり、非収益事業及び収益事業共に黒字の決算となった。

主要事業内容

1. 査定制度の普及、定着を目指す事業の推進

(1) 中古自動車査定士技能検定試験の年2回実施

自動車市場の成熟化とともに自動車業界における査定制度の重要性がますます高まる中、当協会では技能検定試験受験申請者の受験機会拡大の観点から、1996年度以降、技能検定試験を毎年2回実施し、申請者の利便性向上に努めてきた。

今年度においても6月に前期、12月に後期と年2回の技能検定試験を実施し、さらに、小型車試験を午前、午後分割して受験者の感染防止対策を行った。

また、従来の検定講習のスタイルである対面講習を一部eラーニングに切り替えることで、研修会場における新型コロナウイルスの感染を防ぐ対応を行った。

前期並びに後期の技能検定結果は、下表の通りであった。

	小型車			大型車	合計	前年	対前年比
	前期	後期	計	前期のみ			
申請者数	4,950名	7,536名	12,486名	150名	12,636名	13,757名	91.9%
(内学生)	(1,157)	(1,372)	(2,529)	(—)	(2,529)	(2,747)	92.1
受験者数	4,700	6,990	11,690	145	11,835	13,097	90.4
(内学生)	(1,094)	(1,258)	(2,352)	(—)	(2,352)	(2,579)	91.2
合格者数	3,472	5,322	8,794	141	8,935	10,268	87.0
(内学生)	(793)	(955)	(1,748)	(—)	(1,748)	(2,091)	83.6
合格率	73.9%	76.1%	75.2%	97.2%	—	—	—

今年度の受験申請者総数は12,636名となり、前年の13,757名を1,121名下回った。

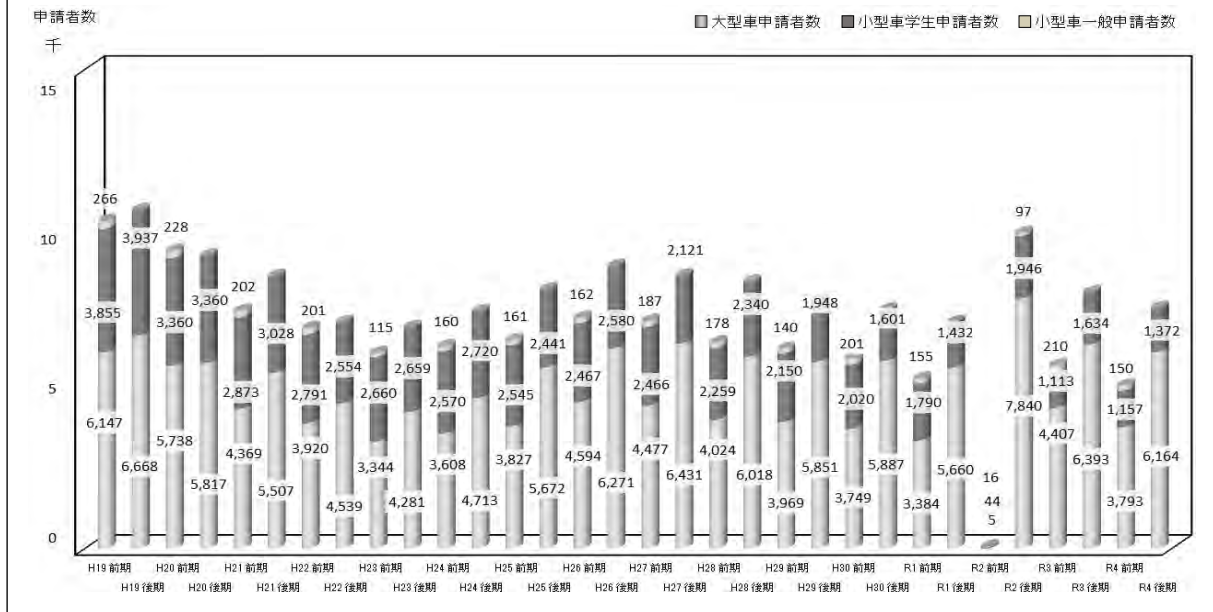
小型車の通年合格率は75.2%となり、昨年の78.2%を3%下回る結果となった。2022年度末現在の登録査定士は133,288名で前年度から308名減少した。

また、査定業務実施店数は7,820社で前年度から16社増加した。

(2) 中古車市場に対応した査定基準の見直し及び円滑な定着・促進

中古自動車査定基準細則にある中古車としての価格差(A点)について、実情と乖離があるとのことから新車価格の90%から93%以内に変更し、特別なものにあつては95%を上限とすることとした。小型車加減点基準では、「みなし修理費」について、前年、外部機関を通じて一般中古車市場との乖離がないか検証を行った結果を基準に反映し、2022年度より使用することとした。大型車加減点基準は、以

技能検定申請者推移



前より検討を続けていたものを最終的に纏め、変更し2022年度より使用することとした。また、査定業務規程、約款についても見直しを行い2022年度より改正したものを使用することとした。

(3) 適正査定のための査定士に対する研修および講習の充実

中古自動車査定士証の有効期間は3年と定められており、査定士証更新のための研修受講は資格登録を維持する条件となっている。義務付け研修会(対面方式)は、今年度は全国各支所で111回実施され、eラーニングを含む33,666名が受講した。この中には実車を用いての研修会が32回含まれており、295名が受講した。さらに、「修復歴の判断基準」の教材を使用して、査定士証更新時の義務付け研修と併せて「特別講習」を実施した。

義務付け研修会以外に各支所単位では、支所が主催する研修会や販売店からの依頼による任意研修会を実施しており、その回数及び受講者は928回、8,674名となっている。最近では、基本的な「車両の点検手順」あるいは「車両状態の表記方法」についての研修に加えて、「修復歴車の確実な判断力の習得」のニーズが増加しており、開催した研修会のうち767回が実車を用いた研修となっている。

(4) 自動車メーカーが実施する査定士技能向上活動等への積極的協力

本田技研工業(株)では、社内に展開する査定力向上のための学科試験について問

題の監修を行い、販売店査定士の技能維持向上に協力した。

スズキ(株)では、「スズキ机上査定試験」において、問題の作成及び採点について協力を行った。この試験には、全国で78社、5,444名が受験した。さらにスズキ(株)では「スズキ認定査定士技能検定」を実施していることから、当協会では受験者の教育、試験車両の解答作成及び試験監督、業務監査の協力を行った。また、トヨタ自動車(株)、日産自動車(株)では、販売店検査員が発行した「品質評価書」の監査業務について協力を行った。

(5) 一般社団法人日本中古自動車販売協会連合会への研修協力

2011年度より実施されている「中古自動車販売士制度」において、修復歴車を含めた車両品質評価の研修依頼があり、今年度においては、全国で470名に研修を行った。

(6) 査定士のための各種研修用教材の開発

今年度は、2021年末に視聴覚教材(DVD)用として撮影した事故車修理画像の編集作業を実施した。視聴覚教材(DVD)は、2023年6月にリリースすることとした。

(7) 一般消費者への査定制度PR

当協会の業務内容については、ホームページの充実を図り広報する他、一般消費者に広く査定協会を広報するためPRに努めた。

2. 中古車関連情報の適切迅速な提供

(1) 中古車価格情報内容の充実

2022年度は、前年度に引き続き半導体不足等による部品供給の滞りにより各自動車メーカーで生産調整が行われた。下半期から改善されてきたものの、新車の長納期化のため、中古車流通量も少なく、中古車市場の価格高騰が続いた。こうした市場実態の把握が難しい局面が続いている状況の中、ガイドブック作成にあたり各自動車メーカー及び販売会社と情報交換を行い、さらに「中古車販売実績」「市場実態調査」「オークション情報」等幅広い情報を積極的に取り入れ、掲載価格が市場実勢と乖離することがないように努め、マーケットの状況を迅速にガイドブックの価格設定に反映した。

(2) 中古車ガイドブックの発行方法について

販売店の統廃合、価格情報誌の増加やインターネット、査定システムの普及などにより、当協会が発行する中古車価格ガイドブックの販売部数の減少傾向が続いている。物価高騰により紙代などの原価も高騰したことから、小型トラックの掲載を紙媒体からCD版へ移行し、制作コストの削減を行った。また、小型トラックの移行に伴い、より利便性の高いJAAI-Netの「Web Silver」「Web Yellow」についてPRを行った。拡販策としては、中古車ガイドブック、「シルバースブック」と「イエローブック」を新規査定業務実施店に3ヵ月間無償配布した。

(3) カーチェックスの活用及び普及

査定総合支援システム「カーチェックス」は、リリースして12年目を迎えるが現在、自動車乗用メーカー7社がメーカー主導でほぼ全国の販売店で導入し、その内6社が基幹システム連動を果たしている。今年度も販売店や自動車メーカーの意見をシステムに反映しアップグレードに努め導入販売店は増加した。また、「カーチェックス」を軸とした自動車メーカーのシステム構築にも積極的に提案し、協力を行った。今後も現場の意見を聞きながら使用者の利便性を向上させるために開発を続けていく。

(4) 流通価格検索サイトについて

当協会が運営する流通価格検索サイト「e-JAN」は事業を開始して6年目を迎える。オートオークションの実績と店頭小売価格の実績を基本としているが、利用者の利便性を高めるべく機能強化も図った。常に情報を収集しながらユーザー数増加に努め、また、協会システム及び他社システムとも連携、協業を図り、積極的な発展を行った。

(5) 査定参考文献について

「2022年版の査定ガイド」

各自動車メーカーより新型車が相次ぎ発売されたが、車種やグレードを特定するために型式指定番号と類別区分番号を手がかりとした情報をまとめて、すべての車型を漏れなく収載した。また、仕様・装備品等も年々増加しており情報内容が複雑化したことから購読者の関心の高い装備品欄をより判り易くまとめ、購読者の利便性の向上を図った。輸入車についても国産車同様に情報内容の充実に努めた。

(6) JAAI-Netによる情報提供及び利用会員増加対策の強化

JAAI-Netによる車種諸元情報、中古車価格情報の提供については、カーチェックの車両情報にも使用することから、より正確な情報を提供するように努めた。

自動車メーカー、自動車関係団体、損害保険会社等に対して積極的にJAAI-Net利用の呼びかけに努め、JAAI-Net会員数は2022年度末で388企業、1,070IDであった。

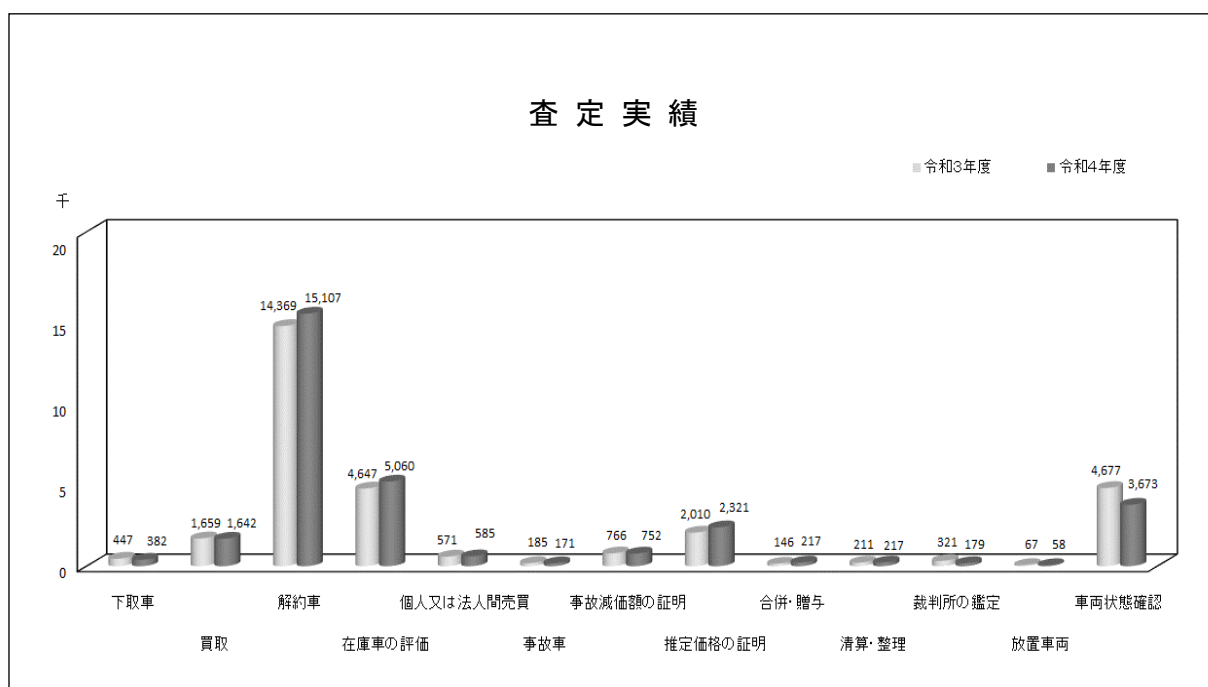
3. 査定協会職員による査定及び検査業務の適正な実施

(1) 査定業務の適正な実施

今年度の査定実績は、30,364台となり、前年比101.0%となった。

依頼目的別の集計では、「下取車」は382台で前年比85.5%、「買取」については1,642台で前年比99.0%であった。

依頼先区別に見ると、「販売店」からの査定依頼が7,072台で前年比87.2%、専門店は前年比106.7%、一般ユーザーは前年比105.8%となった。



(2) 車両状態証明事業（V-CON）の積極的な実施

中古車の販売時に車両の状態を見やすく記載して、販売店が購入者に説明できる証明書の発行業務を実施している。今年度の検査台数では126,985台（前年比94.4%）

となった。また、認定検査員制度は、販売店における検査の内製化を促進できることから、積極的に検査員の育成協力を行い、認定検査員試験において64名が合格した。

(3) 中古車品質証明及び修復歴車判定業務の積極的な実施

当協会では、中古自動車の価格評価以外に、「修復歴車に該当するか否か」の判断を求められることが多くある。そのため、2001年度から「車両状態確認証明書」を発行してそのニーズに対応している。今年度においては、全国で3,673台（前年比78.5%）の証明書を発行し、修復歴車判定のニーズに対応した。

(4) 商品中古自動車確認証明業務の適正な実施

1986年度から実施している当業務は、販売事業者の経費節減の観点から自動車販売事業者に浸透しており、今年度は180,240台（前年比103.5%）の申請であった。なお、全国の自動車販売店に還付された商品中古自動車の自動車税種別割の減免金額は、約16億1千6百万円となっている。

(5) オークション出品車両及び車両評価の適正な検査の実施

当協会では、オークション会場等から出品車両あるいは展示車両の検査業務を依頼されており、厳正な姿勢で検査を実施している。今年度も、新車販売台数の低迷の中ではあるが、33,688台（前年比90.2%）の検査を実施した。

(6) 中古車輸出事業の海外へのPRと信頼される中古車輸出検査の実施

今年度の輸出検査台数は2,500台（前年比141.0%）であった。その内、モータリシャスの検査台数は2,372台（前年比149.0%）、バングラデシュは109台（前年比109.0%）となった。

4. その他

(1) 協会内システムの充実

協会版カーチェックスについて支所の要望を収集し利便性の向上を図った。また、その改善内容をディーラー版カーチェックスへ反映させ、販売店システムの向上を図った。また、Web会議システム、電子書簡システムを導入し、更に発展をさせ、業務効率化及び経費削減にも一助になった。

(2) 協会職員の人材教育（経理担当者研修、査定・検査職員研修等）

① 全国査定長会議の開催

2023年1月25日に全国査定長会議を開催した。主たる内容は、各分科会からの活動報告及び、本部からの連絡を行った。

② 新任査定長研修会の開催

2023年1月26日に新任査定長研修会を開催した。主たる内容は、現在までの協会の歩みや各業務についての理解を深める研修を行った。また、外部講師による「ハラスメントについて」をテーマとした研修を行った。

③ 職員研修会の開催

2023年3月8日に全国査定職員研修会を開催した。主たる内容は、電子車検証の運用開始に伴う変更点及び、翌年度から運用を行う中古自動車査定制度運営規程の変更などの研修を行った。また、外部講師による「分かりやすい話し方」、「ハラスメントについて」をテーマとした研修を行った。

④ 経理担当者研修会の開催

2023年2月8日に全国経理担当者研修会を開催した。主たる内容は、決算・予算作成要領についての説明、及びインボイス制度の概要説明を行った。

(3) 諸会議の効率的な開催

諸会議の開催を効率的・効果的に進め経費及び時間の節減に努めた。

また、新型コロナウイルス感染症予防から、移動と集合を控え、一部会議はオンラインで開催した。

(4) 業務の効率的な実施による諸経費の削減

業務全般に亘って効率的な遂行を目指し、経費及び時間の節減に努めた。

(5) 関係諸官庁並びに自動車関係団体との緊密な連携と情報交換の実施

関係諸官庁並びに関係団体との連携を密にして、指導と協力を仰ぎ、情報の交換、資料の収集、社会経済情勢の把握に努め、事業の円滑な推進を図った。

(6) 個人情報保護法等法令順守への取組み

2005年より当協会は個人情報保護法に対応するため、「基本方針」、「保護規程」、

「情報セキュリティ実施要領」を定めているが、今年度も査定士技能検定試験、査定士管理、個別査定等の業務ごとに厳正に取り組むよう努めた。

第57期に開催した主な会議、講習会等

A. 理事会

第184回理事会（2022年6月7日）

於「イイノホール&カンファレンスセンター」

議 題

- (1) 2021年度(第56期) 事業報告書(案) の承認について
- (2) 2021年度(第56期) 計算書類等(案) の承認について
- (3) 事業報告書(案)・計算書類等(案) について監事からの監査報告及び承認について
- (4) 第146回定時評議員会の開催について
- (5) 理事会議長の順位決めについて
- (6) 理事の推薦、及び第146回評議員会への提案について
- (7) 第185回理事会の開催(案) について
- (8) その他 (株) 中古車流通支援センターの解散について

第185回理事会（2022年6月28日）

於「イイノホール&カンファレンスセンター」

議 題

- (1) 代表理事等(理事長・専務理事) の選定について
- (2) 理事会議長の順位決めについて

第186回理事会（2023年3月24日）

於「イイノホール&カンファレンスセンター」

議 題

- (1) 2023年度(第58期) 事業計画書(案) の承認について
- (2) 2023年度(第58期) 収支予算書(案) の承認について
- (3) 第147回定時評議員会の開催(案) について
- (4) 第187回理事会の開催(案) について

B. 評議員会

第146回評議員会（2022年6月28日）

於「イイノホール&カンファレンスセンター」

議 題

- (1) 2021年度(第56期) 事業報告書について
- (2) 2021年度(第56期) 計算書類等(案) について
- (3) 事業報告書・計算書類等(案) について監事からの監査報告、及び承認について
- (4) 評議員の交代に伴う選任について
- (5) 理事任期満了に伴う改選について
- (6) 廣澤孝夫前理事長に対する退任慰労金の支払いについて

C. 技能検定専門委員会

第150回技能検定専門委員会（2022年5月16日）

議 題

- (1) 第73回中古自動車査定士技能検定の試験問題について
- (2) その他

第151回技能検定専門委員会（2022年7月11日）

議 題

- (1) 第73回中古自動車査定士技能検定試験の合否について
- (2) その他

第152回技能検定専門委員会（2022年11月1日）

議 題

- (1) 第74回中古自動車査定士技能検定の試験問題について
- (2) その他

第153回技能検定専門委員会（2023年1月10日）

議 題

- (1) 第74回中古自動車査定士技能検定試験の合否について
- (2) その他

D. 査定基準価格専門委員会

第616回	2022年 4月15日	於「東郷記念館」
第617回	2022年 5月20日	於「東郷記念館」
第618回	2022年 6月17日	於「東郷記念館」

第619回	2022年 7月15日	於「東郷記念館」
第620回	2022年10月21日	於「東郷記念館」
第621回	2022年11月18日	於「東郷記念館」
第622回	2022年12月16日	於「東郷記念館」
第623回	2023年 1月20日	於「東郷記念館」
第624回	2023年 2月17日	於「東郷記念館」
第625回	2023年 3月16日	於「東郷記念館」

E. 輸出検査特別委員会

開催実績なし

F. 査定士技能検定試験

第73回	2022年 6月19日	小型	受験者数	4,700名
	2022年 6月15日	大型	受験者数	145名
第74回	2022年12月 7日	小型	受験者数	6,990名

G. 全国支所長会議

2022年6月8日 於「イイノホール&カンファレンスセンター」
議 題

- (1) 2021年度(第56期) 事業報告について
- (2) 2021年度(第56期) 計算書類等について

2023年3月17日 於「イイノホール&カンファレンスセンター」
議 題

- (1) 2023年度(第58期) 事業計画(案) について
- (2) 2023年度(第58期) 予算の考え方について

H. 運営企画委員会

第290回運営企画委員会 (2022年6月7日)

於「イイノホール&カンファレンスセンター」

議 題

- (1) 2021年度(第56期) 事業報告書(案) について
- (2) 2021年度(第56期) 計算書類等(案) について
- (3) 2023年度中古自動車査定士技能検定試験実施日程について

第291回運営企画委員会（2022年11月25日）

於「ザ ロイヤルパークホテル アイコニック 東京汐留」

議 題

- (1) 2023年度(第58期) 事業計画(案) 及び予算編成の考え方(案) について
- (2) 各分科会の審議状況・予定について

第292回運営企画委員会（2023年3月24日）

於「イイノホール&カンファレンスセンター」

議 題

- (1) 2023年度(第58期) 事業計画(案) 及び収支予算書(案) について
- (2) 2023年度(第58期) 各分科会の進め方について

I. 全国査定長会議

2023年1月25日

於「東京ベイ 有明ワシントンホテル」

議 題

- (1) 各分科会からの報告
- (2) ハラスメント防止研修

J. 運営企画部会

2022年 6月 7日

於「イイノホール&カンファレンスセンター」

2022年11月25日

於「ザ ロイヤルパークホテル アイコニック 東京汐留」

2023年 3月24日

於「イイノホール&カンファレンスセンター」

K. 査定実務分科会

2022年 4月 6日

(第1回)

「WEB会議」

2022年 7月 5日

(第2回)

「WEB会議」

2022年 8月29日

(第3回)

「WEB会議」

2022年 9月21日

(第4回)

「WEB会議」

2022年11月15日～16日

(第5回)

於「本部会議室」

2023年 1月16日～17日

(第6回)

於「本部会議室」

2023年 2月 6日～ 7日

(第7回)

於「本部会議室」

L. 教材分科会

2022年 5月 10日～11日	(第1回)	於「本部会議室」
2022年 6月 28日～29日	(第2回)	於「本部会議室」
2022年 8月 23日～24日	(第3回)	「WEB会議」
2022年 9月 27日～28日	(第4回)	「WEB会議」
2022年 11月 9日～10日	(第5回)	於「本部会議室」
2022年 12月 20日～21日	(第6回)	於「本部会議室」
2023年 2月 1日	(臨時)	於「東洋レコーディング」
2023年 3月 28日～29日	(第7回)	於「本部会議室」

M. 査定基準価格分科会

2022年 4月 4日	(第1回)	「WEB会議」
2022年 5月 31日	(第2回)	「WEB会議」
2022年 6月 30日～7月 1日	(第3回)	於「本部会議室」
2022年 8月 2日	(第4回)	「WEB会議」
2022年 9月 1日	(第5回)	「WEB会議」
2022年 10月 4日～5日	(第6回)	於「本部会議室」
2022年 11月 1日	(第7回)	「WEB会議」
2022年 12月 1日～2日	(第8回)	於「本部会議室」
2023年 2月 1日	(第9回)	「WEB会議」
2023年 3月 1日	(第10回)	「WEB会議」

N. 輸出検査実務分科会

開催実績なし

O. V-CO N推進分科会

2022年 4月 18日～19日	(第1回)	於「本部会議室」
2022年 7月 12日～13日	(第2回)	於「本部会議室」
2022年 11月 21日～22日	(第3回)	於「三重」
2023年 1月 12日～13日	(第4回)	於「本部会議室」
2023年 3月 13日～14日	(第5回)	於「本部会議室」

P. システム分科会

2023年 3月 2日～3日	(第1回)	於「本部会議室」
----------------	-------	----------

Q. 職員の研修会

- (1) 全国査定職員研修会
2023年 3月 8日 於「東京ベイ 有明ワシントンホテル」

- (2) 全国経理担当者研修会
2023年 2月 8日 於「東京グランドホテル」

- (3) V-C O N本部研修・資格試験
2022年 6月 8日 「WEB開催」
2022年 9月 14日 「WEB開催」
2022年 12月 8日 「WEB開催」
2023年 3月 17日 「WEB開催」

- (4) 新任事務長研修会
2022年 9月 12日 於「ザ・グラン銀座」

- (5) 新任査定長研修会
2023年 1月 26日 於「東京ベイ 有明ワシントンホテル」

R. コンテスト全国大会関連

第10回中古自動車査定士技能コンテスト全国大会 正副委員長会議

2022年 9月 13日

於「イイノホール&カンファレンスセンター」

S. その他

第57期に作成した主な出版物

『査定ガイド』

(2022年版)